ETK1323119

- 融着型現地組立FCコネクタ -

導入説明書（0.25mm素線及び0.9mm心線用）

安全にお使い頂くために

本製品は安全性を十分に考慮して設計しています。
しかし間違った使い方をすると、事故や製品の故障に
つながる恐れがあります。事故を防ぎ、安全にお使い頂く
ために次のことを必ずお守り下さい。

⚠ 光ファイバおよび光ファイバ屑は小さく、先端が鋭利です。指に刺す、目に入る、と怪我をする恐れがありますので、取り扱いには十分注意して下さい。
作業中は**安全メガネを着用**して下さい。

⚠ コネクタ端面や光ファイバ端面を**のぞき込まない**で下さい。強い通信光が出ている場合があり、目を傷つける恐れがあります。通信光は目には見えませんので十分注意して下さい。

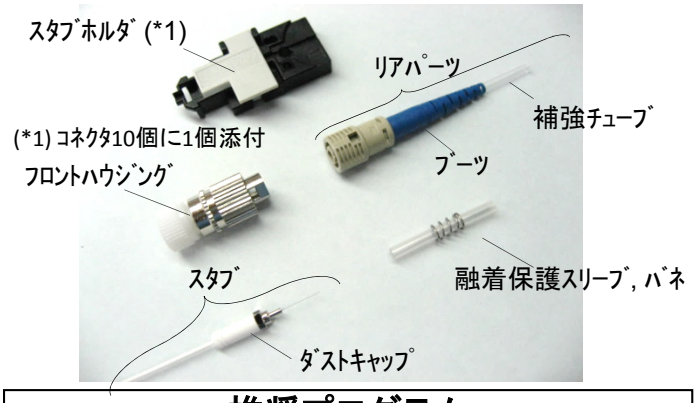
⚠ 光ファイバの清掃に使用するエチルアルコールは引火性の液体です。**火気の無いところでご使用**下さい。また、粘膜に対する刺激作用がありますので、眼に入ったり皮膚に付着した場合は**清水で十分に洗い流して**下さい。

⚠ 高所作業の場合には、組立工具を落とさないように注意してください。

ご注意

1. 不適切な作業を行うと製品の特性に支障をきたします。本説明書及び、ファイバ融着機の取扱い説明書をご理解頂いた後、作業を行って下さい。
2. スタブから出ている光ファイバに触れないで下さい。
3. 製品は汚れまたはホコリに敏感です。ご使用するまで、パッケージから部品を取り出さないでください。
4. 製品の特性は光ファイバのカット面により影響を受けます。正常にカット出来るファイバカッタを使用してください。
5. コネクタ取り付け作業が完全に終了するまで、ダストキャップは取り外さないで下さい。
6. 本説明書は、住友電気工業製融着機TYPE-201シリーズ及び住友電気工業製ファイバカッタFC-7Rシリーズを使用することを想定し製作されております。その他の融着機及びファイバカッタを使用する場合は、各製品の操作方法に従い作業してください。

部品構成



推奨プログラム

融着接続機	ﾌｧｲﾊﾞ種	融着ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ	ヒータﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ
Type-201 シリーズ	SMF	SMF-Standard	Lynx
	MMF	MMF-Standard	
Type-71 シリーズ	SMF	SMF-Standard	Lynx
	MMF	MMF-Standard	

SMF ： G.652, G.657
MMF： MM50(OM2), MM50(OM3), MM62.5(OM1)

組立工具

必要工具類

ﾌｧｲﾊﾞﾎﾙﾀﾞ

その他の装置及び工具類

融着接続機 TYPE-201M4, etc.	ﾌｧｲﾊﾞｶｯﾀ FC-7R-M, etc.	ﾌｧｲﾊﾞｽﾄﾘｯﾊﾟ JR-M03, etc.	ｹﾌﾞﾗｶｯﾀ

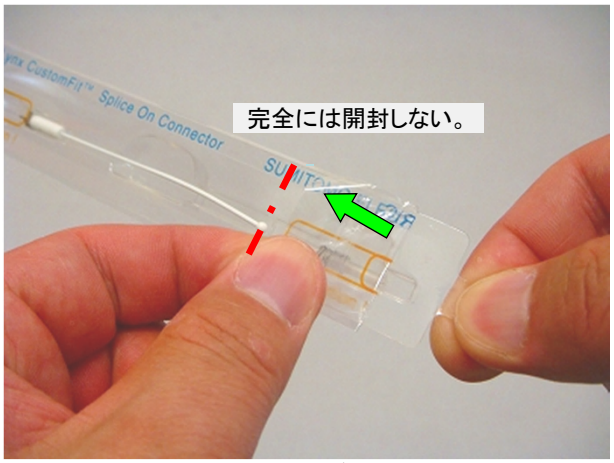
融着接続作業に先立って放電ﾃｽﾄ*を行って下さい。
(各融着接続機の取扱説明書を参照下さい)

*放電ﾃｽﾄ用ﾌｧｲﾊﾞはｷｯﾄに含まれておりません。

ﾌｨｰﾙﾄﾞでの使用ﾌｧｲﾊﾞ種を確認して下さい。

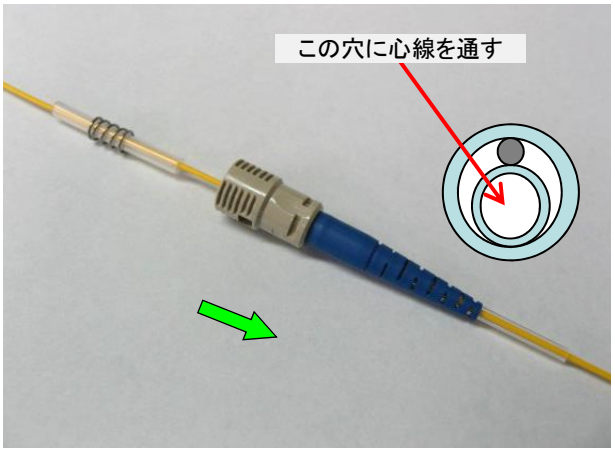
住友電気工業株式会社　機器事業部
TEL：045-853-7225,　FAX：045-851-1286

1



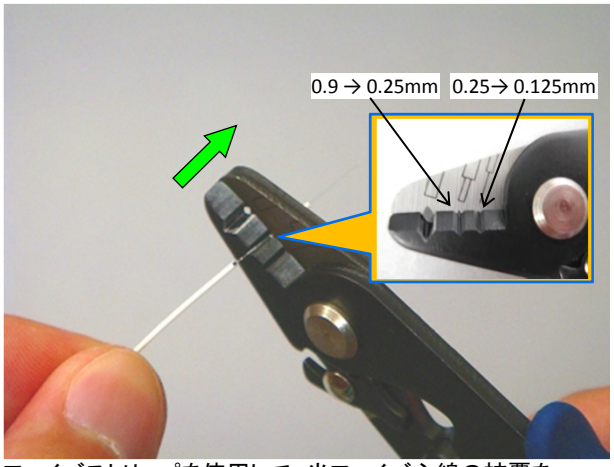
パックを開封し、融着保護スリーブ（バネ付き）を取り出す。
※融着保護スリーブ側から開封し、完全には開封せず、融着保護スリーブを取り出せる範囲(5cm程度)で止めてください。

2



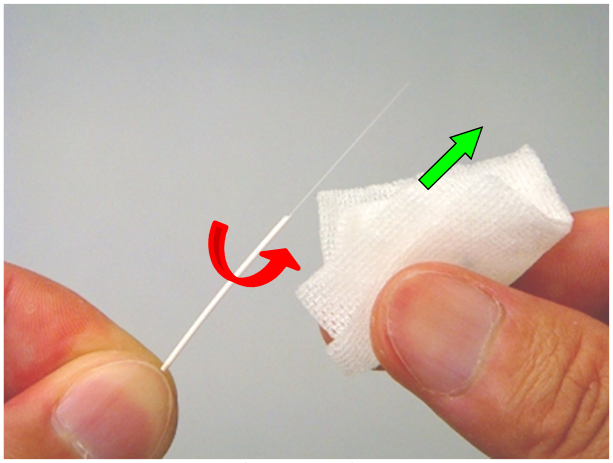
光ファイバ心線にリアパーツと融着保護スリーブを通す
（融着保護スリーブの向きは不問）。

3



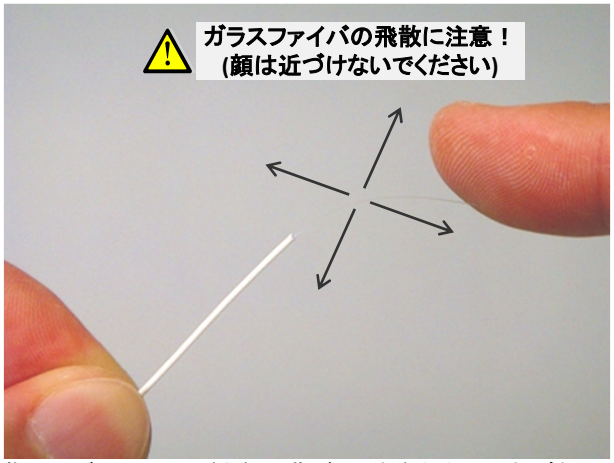
ファイバストリッパを使用して、光ファイバ心線の被覆を35mm程度除去する。(数回に分けて除去する。)

4



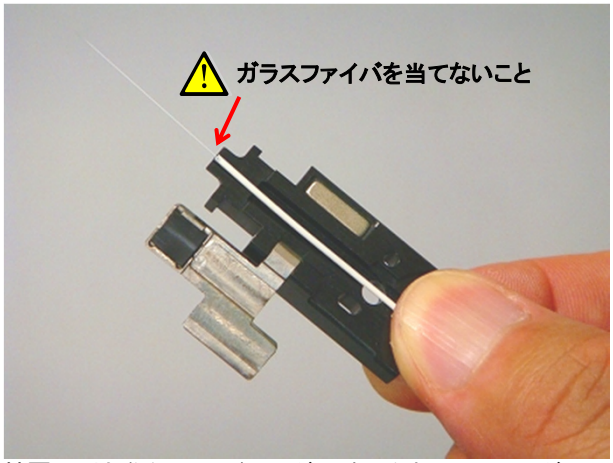
アルコールを含ませたガーゼで、ガラスファイバ表面を清掃する。1方向を清掃したらファイバを回転させ、円周方向に全周を清掃する。

5



指先でガラスファイバを数回曲げて（前後左右にそれぞれ30° 程度）、ファイバが折れないことを確認する。

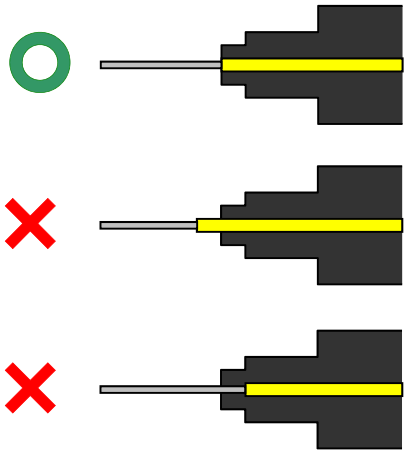
6



被覆の剥き際をファイバホルダ先端に合わせて、ホルダに光ファイバ心線をセットする。

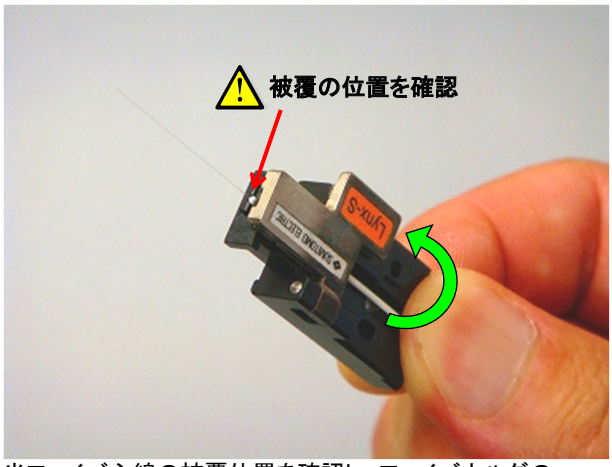
ガラスファイバをホルダに当てないように注意して下さい。
（硬い物が触れるとファイバ表面に傷が付き、ファイバが折れる場合があります。）

7



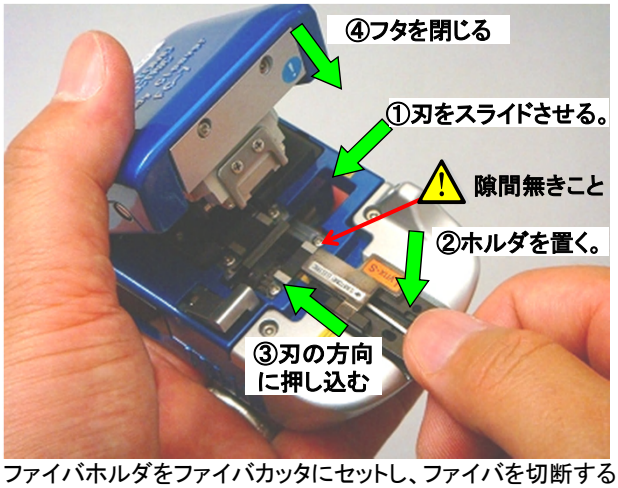
光ファイバ心線の被覆位置

8



光ファイバ心線の被覆位置を確認し、ファイバホルダのフタを閉じる。

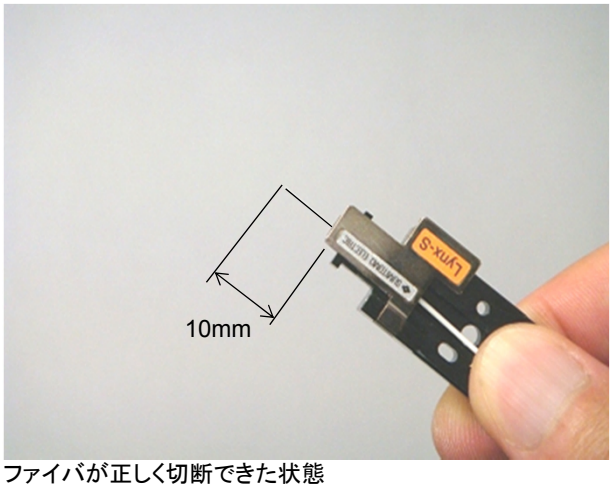
9



ファイバホルダをファイバカッタにセットし、ファイバを切断する。

※ファイバカッタのゴムクランプおよび刃は、定期的に清掃して下さい。

10



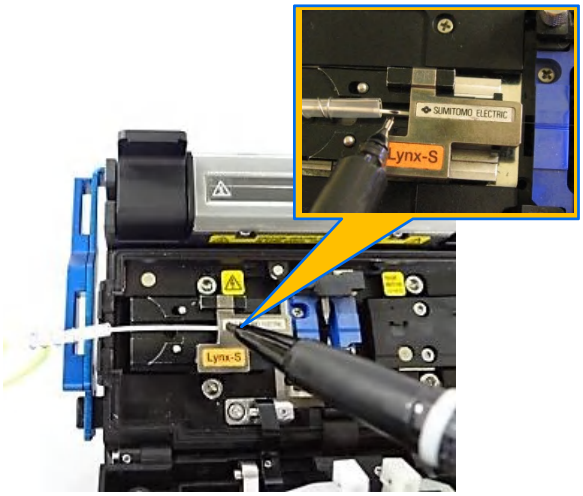
ファイバが正しく切断できた状態

11

融着機の左側に、ファイバホルダをセットする。

ガラスファイバを融着機に当てないように注意して下さい。

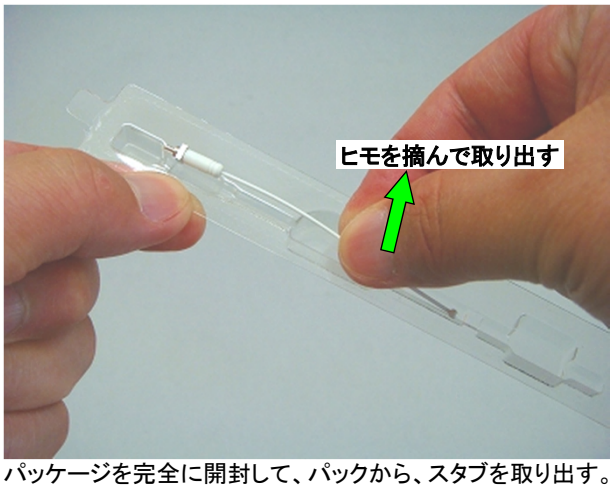
12



ホルダフタの際付近で心線の上方向にマーキング（●）する。

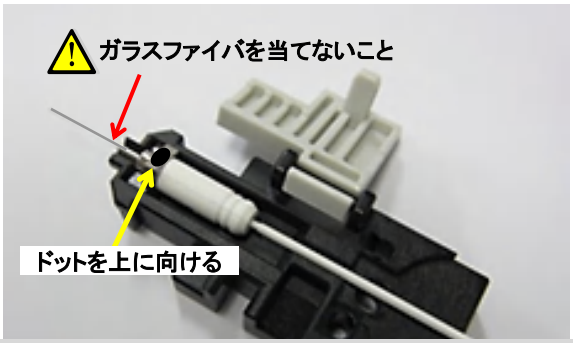
※マーキング（●）はヒーターにセットする際（No.25）のねじれ防止の目印となります。

13



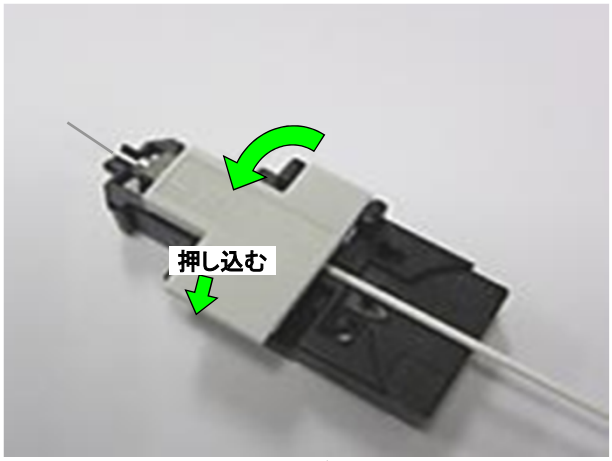
パッケージを完全に開封して、パックから、スタブを取り出す。

14



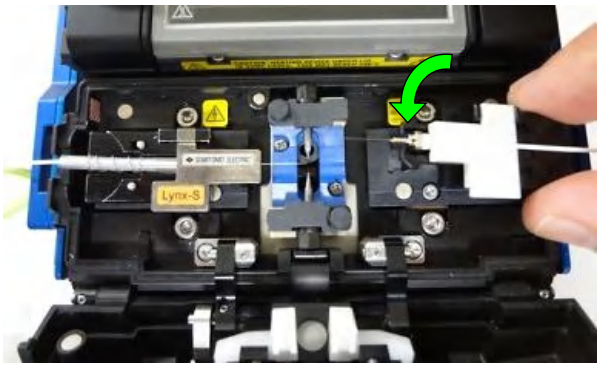
(*) スタブの形状によってドットマーク(●)の無いものがあります。
その場合は**金属部品の平面部を上に向けて**セットして下さい。

15



フタを閉じて軽く押し込み、スタブを固定する。

16

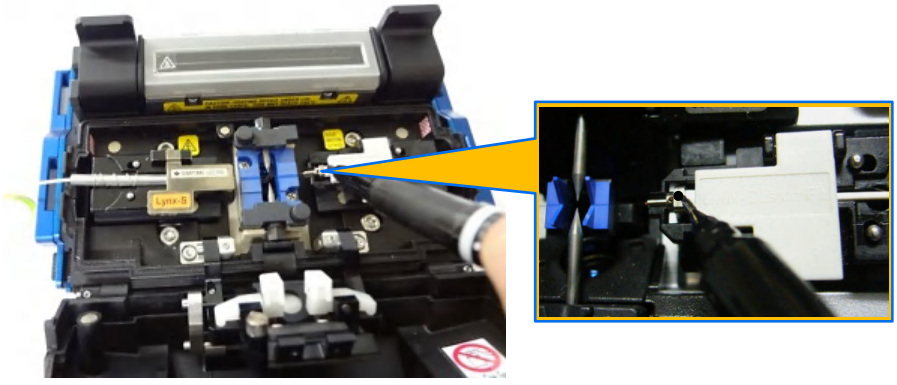


融着機の右側に、ファイバホルダをセットする。

⚠ **ガラスファイバを融着機に当てないように注意して下さい。**
ガラスファイバが正しいV溝に乗っていることを確認してください。
なお、4心ファイバ対応機では**1番溝**※、8心ファイバ対応機では**3番溝**、12心ファイバ対応機では**5番溝**にファイバが乗っているのが正しい状態です。
※V溝はヒータ側が1番溝となります。

17

スタブの金属平面部にマーキング(●)する



スタブにドットマーク(●)の無いものは、スタブの金属平面部にマーキング(●)する。

※マーキング(●)はヒーターにセットする際(No.25)のねじれ防止の目印となります。

18

融着機の風防を閉める。

ガラスファイバが正しいV溝に乗っていることを確認してください。
（詳細は16項をご覧ください）
風防は静かに閉めてください。

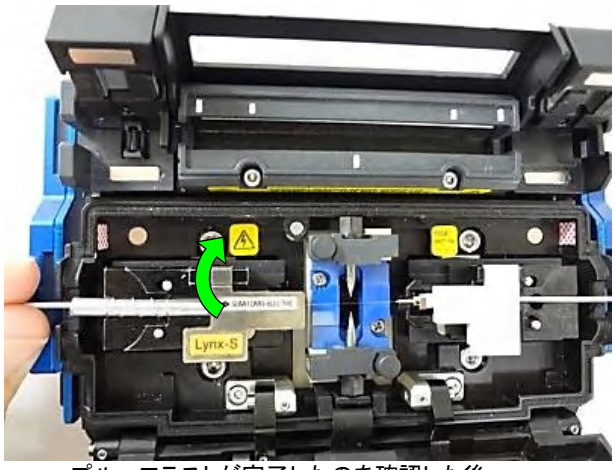
19

Start アイコンを押す。
プレ放電後にファイバの検査が行われ、融着が始まります。
（融着機の設定により、操作が不要の場合があります。
詳細な操作方法は各融着機の取扱説明書をご参照ください）

20

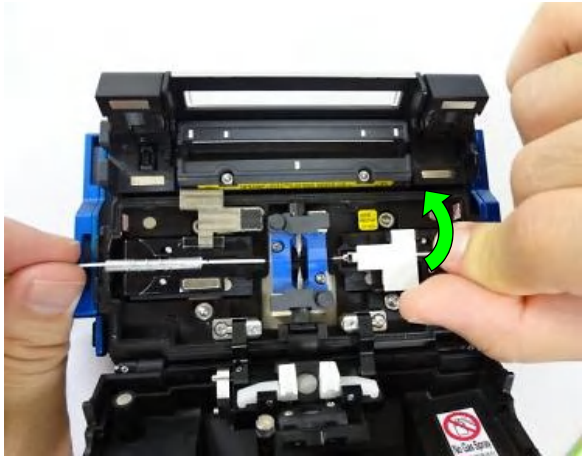
融着接続後に、融着機の風防を開ける。

21



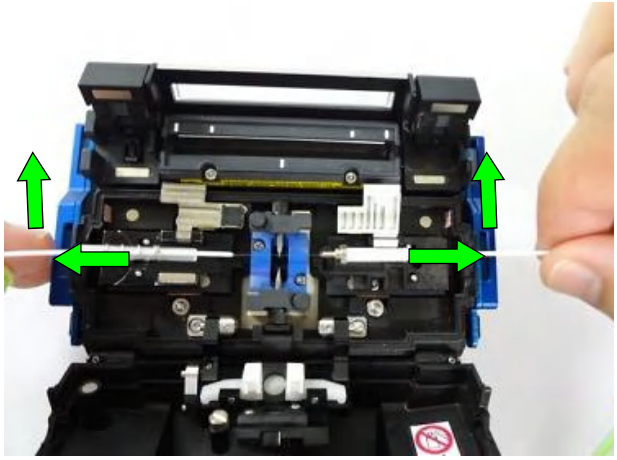
プルーフテストが完了したのを確認した後、
左手で光ファイバ心線を軽く押さえながら、
左側のファイバホルダのフタを開ける。

22



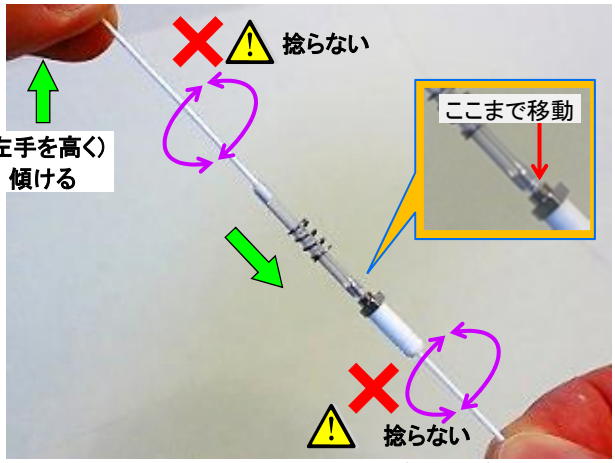
右側のホルダのフタを開ける。

23



光ファイバ心線とキャップのヒモを持って、左右方向に軽く
引っ張りながら持ち上げる。

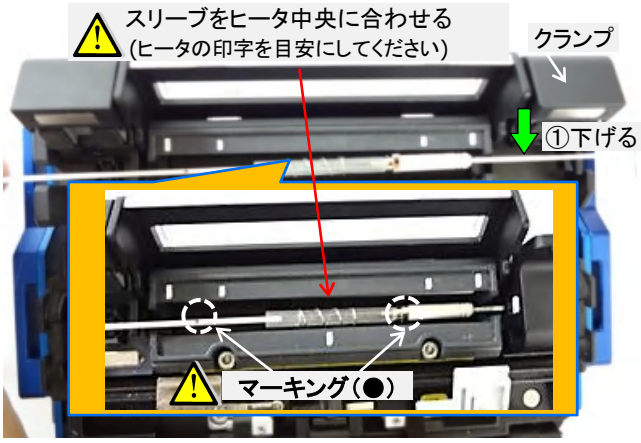
24



左側を高く傾けて、ファイバ保護スリーブをスタブ側に
滑らせて移動する。

⚠ **心線やヒモを捻らないで下さい。融着点あるいはガラス
ファイバが傷付き、故障（断線）する恐れがあります。**

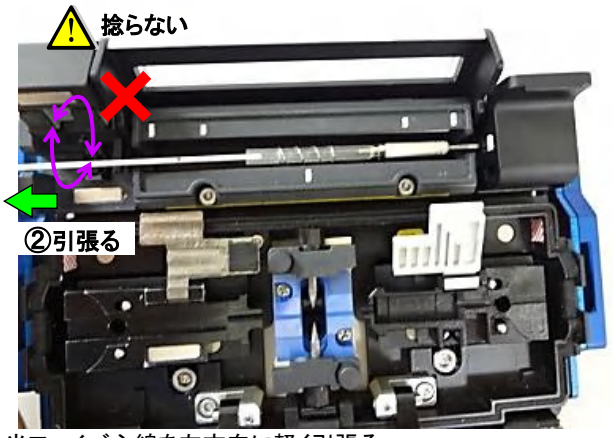
25



スタブ側を右側のクランプに入れて、ヒモをクランプする。

⚠ **ねじれ防止の目安として、心線側とスタブ側の両方の
マーキング（●）を上にしてセットして下さい。
心線及びスタブにつけたマーキングの両方のずれが
10° 以下であることをご確認して下さい。**

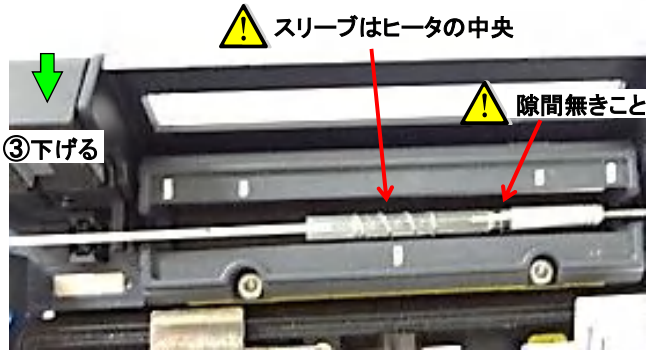
26



光ファイバ心線を左方向に軽く引張る。

⚠ **心線やヒモを捻らないで下さい。融着点あるいはガラス
ファイバが傷付き、故障（断線）する恐れがあります。**

27



光ファイバ心線を左側のクランプに入れて（下げて）、心線を
クランプする。

⚠ **融着保護スリーブと、フェルールとに隙間の無きことを確認し
て下さい。隙間がある場合は先の細い物を使って、スリーブ
をフェルール側に寄せて下さい。**

28

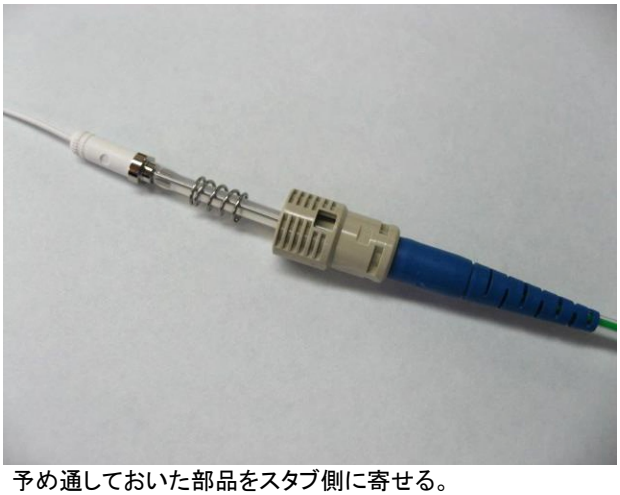
ヒータアイコンを押す。
ヒータのスイッチが入り、融着保護スリーブが加熱される。
（融着機の設定により、操作が不要の場合があります。
詳細な操作方法は各融着機の取扱説明書をご参照ください）

29

加熱終了のアラームが鳴ったら、両方のクランプを開けて
取り出す。このとき、心線とスタブのマーキング（●）に
10° 以上のずれが無いか確認すること。
※ずれている場合はコードを未加工部分まで切り落として、
新しいものを取り付けてください。

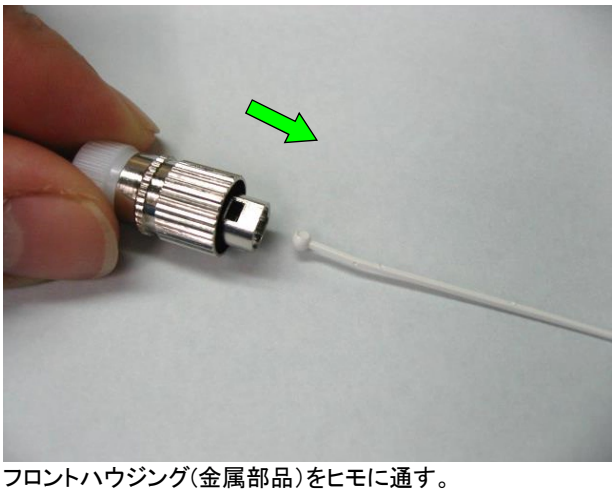
⚠ **スタブ及び融着保護スリーブは高温になっているので
触れないようにご注意下さい。また、以降の作業は融着保護
スリーブが十分冷却されてから行ってください。**

30



予め通しておいた部品をスタブ側に寄せる。

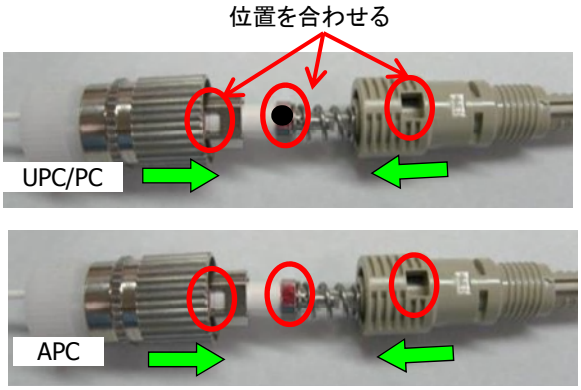
31



フロントハウジング(金属部品)をヒモに通す。

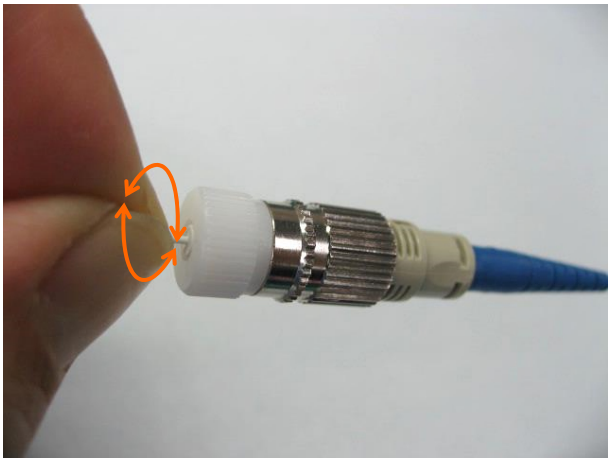
⚠ **この作業は、フェルールおよび融着保護スリーブを十分冷ましてから行ってください。**

32



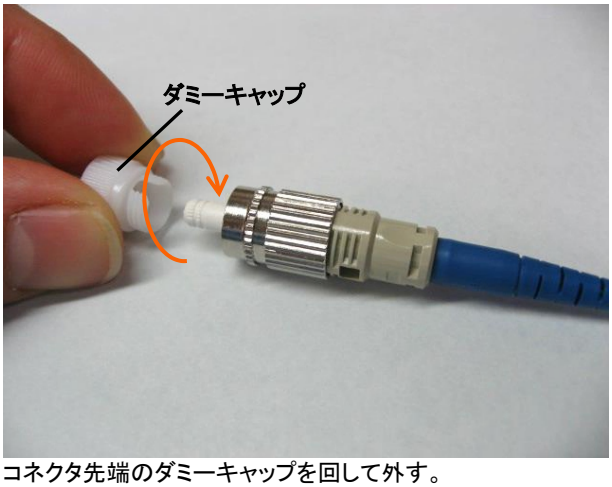
フロントハウジングをスタブ側に寄せ、フロントハウジングの窓(四角穴)、スタブのマーキング、リアパーツの窓(四角穴)の向きをそろえて、フロントハウジングとリアパーツを嵌合する。
(フロントハウジングにスタブが挿入できない場合はフロントハウジングを180度回転させてください。)

33



キャップのヒモを切る。

34



コネクタ先端のダミーキャップを回して外す。

35

完成
キャップを外して、お使い下さい。